

認 定 書

国 住 指 第 1 7 2 3 号
平成 30 年 9 月 21 日

一般社団法人日本壁装協会
代表理事 安田 正介 様

国土交通大臣 石井 啓



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第九号及び同法施行令第 108 条の 2 第一号から第三号まで（不燃材料）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
NM-4820
2. 認定をした構造方法等の名称
植物系繊維混紡織物壁紙張／基材（不燃材料（金属板を除く））
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 材料名

植物系繊維混紡織物壁紙張／基材（不燃材料（金属板を除く））

2. 形状及び寸法等

項 目	仕 様
形 状	平板
表 面 形 状	(1)～(3)のうち、いずれか一仕様又は組合せとする (1)平滑 (2)粗面 (3)エンボス
表面化粧材の厚さ(mm)	5.0 \pm 0.5 以下
表面化粧材の質量(g/m ²)	1800.0 \pm 180.0 以下

3. 材料構成

項 目	仕 様								
表面化粧材	<p>植物系繊維混紡織物壁紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ5.0\pm0.5 mm以下 ・質量1800.0\pm180.0 g/m²以下(有機質量191.0\pm19.1g/m²以下) ・構成 <ul style="list-style-type: none"> [1]化粧：(1)～(3)のうち、いずれか一仕様又は(1)と(2)の組合せとする <ul style="list-style-type: none"> ・質量1456\pm145.6g/m²（固形量）以下（有機質量20.0\pm2.0g/m²以下） (1)合成樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・構成（g/m²） <ul style="list-style-type: none"> 合成樹脂^{※1}、有機質系添加剤^{※2}、有機質系顔料^{※3} <p>…15.0\pm1.5以下</p> <p>（但し、合成樹脂としてポリエステルを使用する場合は、 12.0\pm1.2 以下とする）</p> 無機質系材料、無機質系充てん材、 無機質系顔料、無機質系添加剤^{※4} <p>…0～1436.0\pm143.6</p> (2)撥水剤：①、②のうち、いずれか一仕様又は組合せとする <ul style="list-style-type: none"> ①パラフィンワックスの水系乳化体 ②フッ素樹脂 <ul style="list-style-type: none"> ・質量5.0\pm0.5g/m²（固形量）以下（有機質量5.0\pm0.5g/m²以下） (3)なし [2]主素材^{※5}：植物系繊維^{※6}混紡織物 <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ1.0\pm0.1mm以下 ・質量154.0\pm15.4g/m²以下(有機質量77.0\pm7.7g/m²以下) ・組成（質量％） <table border="0"> <tr> <td>植物系繊維^{※6}</td><td>………50～100</td></tr> <tr> <td>合成樹脂繊維^{※7}</td><td>……… 0～ 30</td></tr> <tr> <td>絹（シルク）</td><td>……… 0～ 30</td></tr> <tr> <td>無機質系繊維^{※8}</td><td>……… 0～ 50</td></tr> </table> 	植物系繊維 ^{※6}	………50～100	合成樹脂繊維 ^{※7}	……… 0～ 30	絹（シルク）	……… 0～ 30	無機質系繊維 ^{※8}	……… 0～ 50
植物系繊維 ^{※6}	………50～100								
合成樹脂繊維 ^{※7}	……… 0～ 30								
絹（シルク）	……… 0～ 30								
無機質系繊維 ^{※8}	……… 0～ 50								

項 目	仕 様
表面化粧材 (つづき)	<p>[3] 接着剤^{※5}</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質量$40.0_{+4.0} \text{ g/m}^2$ (固形量) 以下 (有機質量$29.0_{+2.9} \text{ g/m}^2$ 以下) ・構成 (g/m^2): 1) 又は1) と2) の組合せとする <ol style="list-style-type: none"> 1) 有機質: ①～⑤のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> ①エチレン酢酸ビニル系樹脂 …$29.0_{+2.9}$ 以下 (但し、有機質系添加剤^{※2}を$0 \sim 3.0_{+0.3}$ 含む) ②酢酸ビニル系樹脂 …$29.0_{+2.9}$ 以下 (但し、有機質系添加剤^{※2}を$0 \sim 3.0_{+0.3}$ 含む) ③でん粉系糊 …$29.0_{+2.9}$ 以下 (但し、有機質系添加剤^{※2}を$0 \sim 3.0_{+0.3}$ 含む) ④酢酸ビニル・アクリル系樹脂 …$29.0_{+2.9}$ 以下 (但し、有機質系添加剤^{※2}を$0 \sim 3.0_{+0.3}$ 含む) ⑤アクリル系樹脂 …$28.0_{+2.8}$ 以下 (但し、有機質系添加剤^{※2}を$0 \sim 3.0_{+0.3}$ 含む) 2) 無機質 無機質系充てん剤^{※4}、無機質系添加剤^{※4} …$0 \sim 11.0_{+1.1}$ 以下 <p>(2) なし ([4] 裏打材が (2) の場合に限る)</p> <p>[4] 裏打材^{※9}: 裏打紙</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚さ$0.5_{+0.05} \text{ mm}$ 以下 ・質量$150.0_{+15.0} \text{ g/m}^2$ 以下 (有機質量$65.0_{+6.5} \text{ g/m}^2$ 以下) ・構成 (g/m^2): 1) 又は1) と2) を組合せた仕様とする <ol style="list-style-type: none"> 1) 有機質: ①、②のうち、いずれか一仕様とする <ol style="list-style-type: none"> ①有機質系繊維^{※10} …$65.0_{+6.5}$ 以下 (但し、合成樹脂繊維^{※7}とその他の植物系繊維^{※6}を組合せて使用する場合は、合成樹脂繊維^{※7}$15.6_{+1.6}$ 以下とし、かつ有機質量を$52.0_{+5.2}$ 以下とする。) ②合成樹脂^{※1, ※5} …$8.8_{+0.9}$ 以下 有機質系繊維^{※10} …$46.0_{+4.6}$ 以下 (但し、合成樹脂^{※1}を使用する場合、有機質量を$47.0_{+4.7}$ 以下とする。 有機質系繊維^{※10}として合成樹脂繊維^{※7}とその他の植物系繊維^{※6}を組合せて使用する場合は、合成樹脂繊維^{※7}は$1.0_{+0.1} \sim 16.6_{+1.7}$ とする。) 2) 無機質: 無機質系充てん材^{※4} …$0 \sim 120.0_{+12.0}$ <p>(2) なし ([3] 接着剤が (2) の場合に限る)</p>

項 目	仕 様
表面化粧材 (つづき)	<p>※1：合成樹脂は、エチレン・酢酸ビニル系、酢酸ビニル系、ウレタン系、アルコキシシラン加水分解縮合物系、塩化ビニル系、アクリル系、アクリルスチレン系、シリコーン系、ポリエステル系、フッ素系のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※2：有機質系添加剤は、発泡剤（アゾジカルボンアミド系、オキシビスベンゼンスルホニルヒドラジド系）、防かび剤、エチレングリコール、有機系機能性材料のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※3：有機質系顔料は、アゾ系顔料、フタロシアニン系顔料、縮合多環系顔料のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※4：無機質系材料、無機質系充てん材、無機質系顔料、無機質系添加剤は、酸化チタン、酸化鉄、酸化亜鉛、カーボンブラック、マイカ、炭酸カルシウム、タルク、水酸化アルミニウム、水酸化マグネシウム、三酸化アンチモン、ホウ酸亜鉛、シリカ、金属（箔、粉、糸状）のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※5：アゾ系、キノン系の染料、又は有機質系顔料^{※3}、無機質系顔料^{※4}を含む場合がある。</p> <p>※6：植物系繊維は、パルプ、綿、麻、レーヨン、スフ、キュブラ、アセテート、セルロース系繊維のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※7：合成樹脂繊維は、ナイロン、ビニロン、ビニリデン、ポリ塩化ビニル、ポリエステル、アクリル、ポリウレタンのいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※8：無機質系繊維は、金属繊維系、ガラス繊維系、炭素繊維のいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※9：裏打材は、紙、無機質紙、不織布 (non wovenpaper) のいずれかとする。</p> <p>※10：有機質系繊維は、植物系繊維^{※6}、合成樹脂繊維^{※7}のいずれか、又は組合せとする。</p>

項 目	仕 様
接着剤及びシーラー	<p>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1) ・ 質量$60_{+6}g/m^2$ (固形量) 以下 (有機質量$60_{+6}g/m^2$以下)</p> <p>・ 構成: [1] 又は [1] と [2] を組合せた仕様とする</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>[1] でん粉系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量$60_{+6}g/m^2$ (固形量) 以下 (有機質量$60_{+6}g/m^2$以下) ・ 組成 (質量%) <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">{</div> <div> <p>でん粉のり 80_{+2} 以上</p> <p>補強剤^{※11} 20_{+2} 以下</p> </div> </div> <p>(又は補強剤なし)</p> <p>[2] シーラー: 合成樹脂^{※12}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量$10_{+1}g/m^2$ (固形量) 以下 (有機質量$10_{+1}g/m^2$以下) </div> </div> <p>2) ・ 質量$40_{+4}g/m^2$ (固形量) 以下 (有機質量$40_{+4}g/m^2$以下)</p> <p>・ 構成: [1] 又は [1] と [2] を組合せた仕様とする</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 3em; margin-right: 10px;">{</div> <div> <p>[1] メチルセルロース系接着剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量$40_{+4}g/m^2$ (固形量) 以下 (有機質量$40_{+4}g/m^2$以下) ・ 組成 (質量%) <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">{</div> <div> <p>メチルセルロース 80_{+2} 以上</p> <p>補強剤^{※11} 20_{+2} 以下</p> </div> </div> <p>(又は補強剤なし)</p> <p>[2] シーラー: 合成樹脂^{※12}</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 質量$10_{+1}g/m^2$ (固形量) 以下 (有機質量$10_{+1}g/m^2$以下) </div> </div> <p>※11: 補強剤は、エチレン酢酸ビニル樹脂エマルジョン、酢酸ビニル樹脂エマルジョンのいずれか、又は組合せとする。</p> <p>※12: 合成樹脂は、アクリル樹脂エマルジョン (アクリル酸エステル共重合体エマルジョン、メタクリル酸エステル共重合体エマルジョン)、エチレン酢酸ビニル樹脂エマルジョン、酢酸ビニル樹脂エマルジョンのいずれか、又は組合せた仕様、又はシーラーなしとする。</p>
基 材	<p>不燃材料 (金属板を除く)</p> <p>平成12年の建設省告示第1400号に例示されたアルミニウムを除く不燃材料のうち、すでに化粧を施されたもの及び鉄鋼、金属板を除くもの</p>

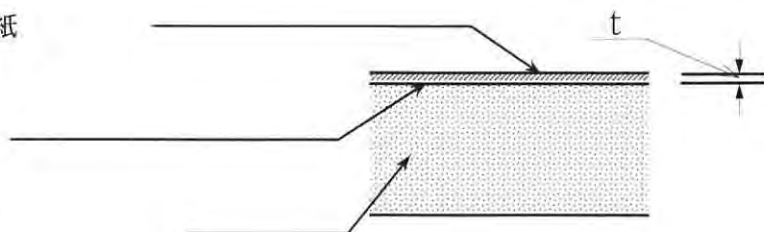
4. 構造説明図

(寸法単位: mm)

1) 表面化粧材…植物系繊維混紡織物壁紙

2) 接着剤およびシーラー…合成樹脂

3) 基 材…不燃材料 (金属板を除く)[※]



$t = 5.0$ 以下

※平成12年の建設省告示第1400号に例示されたアルミニウムを除く不燃材料のうち、すでに化粧を施されたもの及び鉄鋼、金属板を除くもの